

(様式2)

2021 年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

I	スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
II	マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
III	スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
IV	日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
V	スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【静岡県静岡市】

学校名【 県立静岡西高校 】

1 実践テーマ	I ・ II ・ III ・ IV ・ V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	対象学年：36HR38人（体育コース） 25HR25人（体育コース）
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ スポーツ総合演習 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	視覚障害者でもできるスポーツを通じて、障害者でもこれだけのことができるということを学び、障害者を障害者としてみるのではなく健常者と何も変わらないということを認識できるようにする。 また、パラリンピック種目を体験することでパラリンピックや他の障害者大会への関心を高める。
5 取組内容	スポーツ総合演習の時間内で、競技理解、ルール理解、プレーするうえでのポイントなどをプリントやYouTube 視聴などで行い、実際にプレーしてみる。

まずは各自の携帯のYouTube でルールを理解し、実際のプレーを視聴



次に視覚を絶って短い距離でゆっくり投げられたボールで練習



実際の長さ（約 18m）で練習



最後に試合形式で体験



	
<p>6 主な成果</p>	<p>視覚障害者は他の感覚、特に聴覚が優れていることを体感できたと思う。また、視覚が遮断されたことによる生活の大変さもわかったと口に出していた生徒もいた。</p>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>実情に合わせてルールを作りました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラインテープを使うことが難しかったので、投げる方向は仲間が投球者に対してアドバイスすることを許可、その関係からボールを保持してから10秒以内に投球しなければならないルールを廃止。 ・守備側が頭同士をぶつける危険性があるため、3人のうちセンターの一人は必ず1歩前にいなければならないルール追加。 ・バレーコートのアタックラインを投球区域制限のラインとして使いました。
<p>8主な課題等</p>	<p>YouTubeを視聴しながらのルール説明やポイント説明が生徒に入っていくやすく良かったと思う。正規のゴールを準備することが難しいのでゴールに関する工夫が必要になると思う。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>学校独自での取り組みは特に考えていないが、体育コース(来年度からスポーツコースに名称変更)では来年度以降もゴールボールの授業を取り入れていきたい。</p>